

総務建設常任委員会視察研修報告

葛 城 市 議 会
総務建設常任委員会

<日 程> 2026年（令和8年）7月10日（金）

<研修先> 岐阜県揖斐郡大野町

<参加者> 総務建設常任委員会委員5名
および増田順弘議長

吉村 始	委員長
西川善浩	副委員長
梨本洪珪	委員
速水一生	委員
靄本義明	委員
増田順弘	市議会議長



<随行者> 吉田和裕 総務部長
神橋秀幸 補佐・係長

<大野町の概要>

岐阜県の西部（濃尾平野の西北端）に位置し、西に揖斐川、東にその支流の根尾川が流れる、水と緑に囲まれた自然豊かな町である。歴史的な文化遺産や天然記念物も豊富で、国の天然記念物に指定されている「揖斐二度ザクラ」や国史跡の「野古墳群」、さらに国宝の「絹本著色五大尊像」や国の重要文化財である「牧村家住宅」などの歴史的資源を有している。近年では東海環状自動車道の大野神戸（ごうど）インターチェンジの開通に伴い、西美濃地域の新たな交通・物流の拠点として発展を続けている。肥沃な大地を活かした農業が盛んであり、富有柿に加えて、全国一の生産量を誇るバラ苗の全国有数の生産地となっている。歴史と豊かな自然、そして新たな活力の共存する町である。

- ・現在の町域での町制施行年月日 昭和35年1月1日（昭和の大合併時）
- ・人 口 20,885人（令和8年7月1日現在）
- ・世帯数 8,384世帯（令和8年7月1日現在）
- ・面 積 34.20 km²
- ・令和8年度一般会計当初予算額 96億1,000万円

◆ 研修内容 ◆

道の駅「パレットピアおおの」の防災機能について

- <会 場> 道の駅「パレットピアおおの」
- <説明者> 野村光宣（みつのぶ）町議会議長、石橋千夏議会事務局長
鈴村美樹子育て支援課長兼大野町こども家庭センター長
汲田勉まちづくり推進課長、高橋和也まちづくり推進課員
遠藤丘都（たかと）まちづくり推進課主事

[講義概要]

大野神戸インターチェンジの開通を契機に整備された道の駅「パレットピアおおの」を訪問し、研修ならびに現地視察を実施した。

同施設は平時には年間多くの観光客や地域住民で賑わう地域交流・産業振興の拠点である一方、大規模災害時には警察・消防・自衛隊等の応援部隊が活動する「広域防災拠点」としての機能を併せ持つ施設である。令和3年には岐阜県で初めて国土交通省より「防災道の駅」に選定されており、発災直後は緊急避難場所として機能し、その後は段階的に広域支援活動拠点へとシームレスに役割を移行する緻密な運用計画について説明を受けた。

[取組の成果]

- ・ **防災機能と地域振興の高いレベルでの両立**：開駅以来、累計利用者300万人を超える高い集客力を維持しながら、有事の動線や運用体制を緻密に計算した高度な防災拠点機能を両立させている。
- ・ **「防災道の駅」への選定と体制構築**：建物の耐震化、無停電化、通信や水の確保に加え、業務継続計画（BCP）の策定や、岐阜県・指定管理者等との多角的な連携協定を締結し、有事のスムーズな連携体制を確立している。
- ・ **時間経過に応じた柔軟な機能移行**：発災から24時間以内は地域住民や施設利用者の緊急避難所として活用し、それ以降は消防・警察・自衛隊など約550名が活動する広域防災拠点へ移行する柔軟な運用を可能にしている。
- ・ **民間企業との強力な防災連携**：地元企業や江崎グリコなどの企業との防災協定を締結しており、ビスコや液体ミルクをはじめとする実践的な備蓄体制を整備している。

[現地視察]

道の駅「パレットピアおおの」の屋外防災機能施設および隣接する子育て支援施設「子育てはうす ぱすてる」を実地視察した。

屋外では、災害時にヘリコプターの臨時離着陸場となる広大な駐車場スペース、災害用マンホールトイレの設置スペース、消火用水等にも活用できる「飲料水兼用耐震性貯水槽」や防災井戸、非常用発電設備等のハード整備状況を確認した。

また、平時は幅広い世代が利用する木製玩具にあふれた子育て支援施設「ぱすてる」内に岐阜県の防災情報通信システムが配備されており、災害時にはそのまま災害指令室へとシームレスに用途を切り替える、平時施設の有効活用と柔軟な運用の現場を確認した。



■ ■ 委員等の所感 ■ ■

- ・ 道の駅パレットピアおおのは岐阜県の広域防災拠点として位置づけられており、災害時には24時間以内は地域住民や道の駅利用者の緊急避難場所となるが、それ以降は県の広域防災拠点として人的支援の拠点となる。施設には平時は駐車場がヘリポートとなり、道の駅に併設されている子育て支援施設が災害時には指令拠点となる。また、非常用発電設備や耐震性貯水槽等が整備され防災施設の役割りを担う計画とされていた。主に災害時は消防・警察活動拠点と自衛隊活動拠点に分類され、この施設を拠点として人的支援に赴くこととなる。本市が進める受援施設とは少し違うところはあるが、防災機能を持たせた道の駅活用については参考になった。
- ・ 大野町の道の駅「パレットピアおおの」の取組から、道の駅が単なる休憩施設ではなく、地域振興、防災、子育て支援など多面的な役割を担う重要な公共施設になり得ることを学んだ。特に、防災道の駅として選定されるためには、施設規模やアクセス性だけでなく、災害時の役割分担、行政・県・指定管理者・関係機関との連携体制が重要であることを認識した。発災直後の地域避難から、その後の広域支援活動拠点へと段階的に機能を移行する計画は、実際の災害対応を想定した非常に実践的な取組であった。葛城市においても、2つの道の駅や旧社会教育センター跡地などの地域資源を活かした防災拠点整備、既存公共施設の多機能化について検討する余地がある。また、防災と地域活性化を別々に考えるのではなく、平時から人が集まり交流が生まれる場所を、災害時にも活用できる仕組みづくりが重要である。今回の学びを、今後のまちづくりや防災施策の充実に活かしていきたい。

- ・ 道の駅を活用とする防災拠点としてのありかたに指定管理を含め、葛城市としての道の駅を活用する方向性を見出すことができたが、葛城市と同じで海の無い県として、防災意識の低さは感じられる。道の駅と高速道路計画との関係性や周辺の企業誘致を含めた発展、従業員1000名を超える企業誘致や企業との防災連携は素晴らしく、特に江崎グリコの協定は大きく、ビスコや液体ミルクの備蓄は、葛城市としても是非とも地元企業を含め、前向きに進めていきたいところである。
- ・ 今回の視察では、道の駅が観光や地域交流の拠点であるだけでなく、災害時には広域防災拠点として重要な役割を担うよう計画的に整備されていることを学びました。平時の施設機能を生かしながら、災害発生後の時間経過に応じて避難所から広域防災拠点へと役割を移行する運用は、大変参考になりました。また、防災設備の充実だけでなく、子育て支援施設を災害指令室として活用するなど、平時の施設を有効活用する柔軟な発想が印象的でした。葛城市においても、既存の公共施設や防災拠点について、災害時の役割を具体的に想定し、施設整備と運営体制を進めることが、防災力の向上につながると感じました。
- ・ 県の広域防災計画の中に位置づけされており、発災時の国、県、町の連携がスムーズに行える体制となっていると思われる。平時から発災時まで、施設の有効活用が図られる。
- ・ 「パレットピアおおの」のすぐれた特長は、平時の高い集客力・地域振興機能と、災害時の高度な防災拠点機能が極めて高いレベルで両立している点です。現地を拝見し、有事の動線や運用体制が緻密に計算されていることに感銘を受けました。平時は市民や観光客で賑わう施設が、そのままシームレスに防災拠点へ切り替わる仕組みは、財政面・運用面からも理想的と考えます。今回学んだ先進的な取り組みを、葛城市の防災体制充実の提言に活かしていきたいと思います。